

平成 27 年度第 2 回大船渡市総合教育会議会議録

1 日 時

平成 27 年 7 月 22 日（水） 午後 4 時 15 分から午後 4 時 50 分まで

2 場 所

大船渡市役所 第 1 会議室

3 出 席 者

（構成員） 市長 戸田公明、 教育委員長 佐藤浩一、 教育委員 鈴木千恵子、
教育委員 熊谷テイ子、 教育委員 谷地 保、 教育長 今野洋二

（事務局） 子ども課長 下田牧子、 教育次長 木川田大典、生涯学習課長 江刺雄輝、
学校教育課長 千田晃一、生涯学習課長補佐 佐藤 淳、学校教育課長補佐
田代昌幸、教育研究所係長 関戸文則、教育研究所指導主事 吉田武雄、教
育研究所指導主事 熊谷一史、生涯学習課総務係長 今野美智恵

4 報 告

なし

5 議 題

(1) 昨今の学校教育に関する状況について

6 会議の概要

○開会

（教育次長） 本日はお忙しい中、皆様にはご足労いただきましてありがとうございます。私は、会議の進行を務めさせていただきます教育次長の木川田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

ただいまから平成 27 年度第 2 回大船渡市総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして、戸田市長からご挨拶申し上げます。よろしくお願いいたします。

○市長あいさつ

（市長） 大変お忙しいところ、総合教育会議に出席いただきましてありがとうございます。みなさまには常日頃から教育行政はもとより、市政の各搬に渡りましてご支援ご協力いただいております。改めまして御礼申し上げます。

今日、臨時的に総合教育会議を開かせていただいたのは外でもありません。矢巾町で起きた件、決してよその話ではない、岩手県のすぐ身近なところで起きたということで私自身も非常に大きなショックを受けました。これを契機にして総合教育会議を開いて、一体

何がこういうことになったのだろうと我々の中で情報共有をさせていただいて、意見交換の結果を教育関係者、校長先生をはじめ教職員の方々にそれをお伝えいただければ、非常に幸いだなと、それが少しでもこういった悲劇を絶対に起こさないように機能していただければ幸いだなと思い開催させていただいたところであります。

今日は、私の今までのサラリーマン生活を通じた、また市長としての4年半の経験をもとに、私の声としても紹介させていただきたいと思います。有意義な意見交換になりますよう心から期待しております。どうか忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。以上です。

○意見交換

(教育次長) それでは、続きまして、次第の3、意見交換に移らせていただきます。はじめにお手元の資料「昨今の学校教育に関する状況」について事務局から説明いたします。

(学校教育課長) それでは私のほうから説明いたします。よろしくお願いいたします。表紙を返していただきまして資料をご覧くださいと思います。今年の5月に文部科学省より、平成26年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査がございました。

1番のいじめの認知件数でございますが、市全体としては、小中学校とも数件発生しているところでございます。各事案は、いじめ防止対策推進法第28条、これは、いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身または財産に重大な被害が生じた疑いがあるときと認めるときでございますが、これに相当し調査を行ったものはございません。

2番のいじめを受けた児童生徒についての状況でございますが、いじめ発見のきっかけとしては、学級担任による発見、児童保護者からの訴えでございます。それから、いじめを受けた児童生徒からの相談状況でございますが、小中学校とも学級担任への相談が一番多い状況でございました。いじめの態様では、冷やかしかからかい、嫌なことを言われるのが一番多い状況でございました。

3番の学校の対応でございますが、いじめる児童生徒への対応としては、学級担任や外の職員が状況を聞いたり、或いは個別指導、保護者への報告等を行っております。それから、いじめられた児童生徒への対応としては、学級担任や外の職員に加え、スクールカウンセラー等の相談員の状況を聞きながら、継続的に面談しケアを行っております。

4番、学校におけるいじめの問題に対する日常の取組でございますが、職員会議等を通じて、いじめ問題について教職員間で共通理解を図ったり、或いは、道徳の時間とか学級活動の時間にいじめに関わる問題を取り上げて指導、それから、校内組織の整備、保護者や地域住民への質問等がございます。

5番、いじめの日常的な実態把握のために、学校が直接児童生徒に行っている取組でございますが、アンケート調査や個別面談の実施、それから、個人ノートや生活ノート等の活用があり、必要に応じて家庭訪問等も行っているところでございます。

6番、教育委員会におけるいじめの問題に対する日常の取組でございますが、学校からの報告による実態把握を行い、指導助言を行い、必要に応じて関係諸機関との連携を取り

ながら指導を進めております。また、校長会議や生徒指導研究会でもいじめ防止の再確認や研修を行っております。教育相談室には教育相談員を、それから市内全中学校には心の教室相談員を配置し悩みや相談に対応しております。また、スクールカウンセラーによる児童生徒、保護者、教職員へのカウンセリング、援助等を行っております。また、学級満足度や学校生活意欲度を調査する「QU」を今年も実施する予定でございます。

最後、教育委員会における取組の今後の課題でございますが、一つ目は、いじめ相談カード等の再配布を行い、いじめ防止の喚起を図りたいと考えております。もう一つは、地方いじめ防止基本方針の策定を早急に取り組んで参りたいと考えているところでございます。私からの説明は以上でございます。

(教育次長) それでは、ただいまの説明に対しましてみなさまからご質問等ありますでしょうか。よろしいですか。それでは、これ以降、懇談とさせていただきます。それでは、市長、教育委員のみなさまよろしく願いいたします。市長からお願いいたします。

(市長) それでは、私から資料を配布します。全部で7枚、教育委員会と事務局に1枚。いろんな制度ができて、制度的に充実していくのはすばらしいことなんですけれども、制度にのっかれないケースが出てくる。非常に悲しい事案が発生しました。先生が生徒の心の叫びをアンケート上分かったのは、当初新聞紙上では今年のような話も出ましたけれども、実は、昨年分かっていることなんですね。一年前、一年間こういったことが放置されてきたという新聞報道がありました。

こういう事案を見るにつけ、市役所にもつい最近ありました。昨年から今年にかけて4件不祥事が発生しました。その度に私は新聞報道に対してこう頭を下げてお詫びをするという、私自身そういう場面が4件ございました。4件の4件が全てではありませんですけれども、考えてみますと、4件全て新聞紙上に頭を下げたわけではありませんが、別用務が入って出席できなかったのもありますけれども、市長になってから4件だけでなくもっとやりました。分析しますと、全てではありませんが、問題の先送りなんですね。問題と認識したとき、ぱっと打っていけば済む話なんです、先送りされればされるほど、問題解決が難しくなる。最後はドーンと周りも本人も大変なことになる。

丸ポチの4番目を読まさせていただきます。私がサラリーマン生活40年、市長になって4年半で感じたことです。問題に気づいた時に、アクションを起こしていれば些細なことで終わりますけれども、アクションが先送りされればされるほど、問題解決が困難になり最後は不幸な結末に終わる。みなさん、そのとおりだと思いますか。違うと思われませんか。そうですね、そのとおりですね。問題が先送りされれば、ミスは、当事者本人にとっては、一時の心の反面をもたらす。そうですね。けれども、それを思い出す度に不安が巨大化し精神衛生上好ましくない。そうですね。しかも、時間が経てば経つほど、自分が抱えていた問題を皆に知らしめることが精神的に苦しくなる。そうですね。ここまでが前置きです。

次の丸ポチ、自分の担当範囲の悪い情報を、早めに上司に報告・相談することは、恥ず

かしいことでも何でもない。これが分からないんだと思うんですよね。自分のクラスでこういうことがあったとみんなに言うことは、抵抗感があると思うんですよね。何でもないことなんですよね。むしろいち早く報告、相談、情報共有し、組織としてアクションできていればこのような事案にはならなかったはず。したがって、いち早く上司に相談することは評価されるべきことなんです。例えクラスの中で悪いことがあったとしても、校長先生にそれを報告する、教職員組合にそれを報告する、教職員の中でそれを報告する。これはいいことだと思うんです。評価されるべきことだと思うんです。その辺をなぜか恐れているんじゃないか、或いは遠慮しているのではないかという気がするのです。

悪い情報を早く報告、相談することは、少しばかりの勇気がいりますけれども、関係者にはその勇気を持ってほしい。また、いじめられていると感じた時は、生徒の側も勇気を持って声を上げるよう指導していただきたい。こそっとアンケートでやるということもありますけれども、困ったときは泣けと、叫び声を上げろということだと思うんですよね。

さらに、学校管理者、校長先生、副校長先生なんですが、アンケート結果が報告されるのを待つだけではなくて、アンケートをやっているということはお分りのはずですから、その報告がなければ自分のほうから情報を取りに、話を聞きに行く姿勢が大切である。

次、赤の部分は私の思いです。いじめに関するマニュアル類が整備されてはいるけれども、それを実際に動かすのは人そのものです。どうか勇気を持ってマニュアルを動かしていただきたい。ほとんどの人は勇気を持って動かしているのですが、そこまで精神レベルがいない人がいるかもしれない、いないかもしれない、それは分からない。分からないところですからドンとくるわけですよね。そしてみんな慌てふためく。

ですから、私は、会社経験 40 年、市長経験 4 年半ですけれども、困ったときは次の言葉を思い出すのですが、世の中で一番強いのは真実であるということですね。この真実のために一国の首相をやめた人もあるんです。一国の大統領を辞めた方もいるのです。

世の中で一番強いのは真実、後々になって真実が世に出ることは怖いことです。だから早めにアクションを！以上のことを校長先生、教職員のみなさま、生徒全員に何とか伝えていただきたい。もしかしてあるかもしれない。こういう問題を起こす人は、確信犯で起こすのではないと思います。気が弱いんです。精神的に弱いんです。弱い精神を乗り越えられなくて、言葉に出してメッセージをそこで出せない。気が弱い人がこういう事件を起こす。ですから、もう一度、いじめを防止するための仕組みを目指すのは、完全に動かすのは 100%の教職員関係者が関わってくる。分かってない人がいて、たまたま悪い事例が見つかって気が弱いということになる。

市役所の中でも最近 4 件ありました。1 件は、大震災の瓦礫の撤去か何かを電話で依頼していた。そのまま支払いをせずに 3 年間 4 年間きっていた。依頼されたほうは請求しなかったかという、請求しているんです大船渡市に。当人はきっと忙しいものですから、「わかったわかった」とやらなかった。事業所さんの方もこれは大変だと部長さんにドンと電話してばれちゃったんですね。そういう案件です。それから、時間が経てば経つほど苦し

くなるわけですから、業者さんに払うべきある金額を別な事業を作ってそちらにもぐりこませて払っちゃおうということを苦慮したんですね。だけど、苦慮したことがばれちゃった。一つの事案で2件です。

もう一つは、放課後児童クラブである活動クラブに残業手当を払ってなかった。補助金の申請は出していたのですが、担当者が忙しかったものですから、自分の問題として消化できなかった。児童クラブから何回も電話は来るのですが「やりますから、やりますから、やりますから」と言いながら来た。やっぱり上司に電話がボンと来て、バンと破裂した。

そういう例をみますと、やっぱりね、個人の精神的な弱さということと、自分が困ったときは組織のみんなの力を借りて対応していこうとする気持ちが弱い。そういうことを先生方にお伝えしていただきたい。先生方もそういったいじめのケースにぶち当たると、いじめてる子はこの子か、お父さんお母さんは地域ではああいう人だ、ということもあるんだと思います。

ということで、学校というところは、夢を持った子どもたちを育てて、一人前に成長させる大事なところで、どっかで回りきれなかったために命を落としてしまう。制度はいいが、制度を動かすのは人間ですよ。人間を動かせる人間に学校の教職員はなっていただきたい。私の言いたいことは以上です。

(教育次長) それでは、ただいま市長からお話があったこと、先ほど学校教育課長の方から説明があったことについて、みなさんからご質問ご意見がありましたらお話ししていただきたいと思います。

(委員長) 教育委員会で話題になったのですが、市長がおっしゃるとおり本当に悲しい出来事です。本来、子どもたちにとって学校とは安全、安心を確保できる唯一という大げさになりますが、場所であるのに、そこで起こったということはものすごく悲しいことです。

市長さんがおっしゃったとおり、赤字で書いてありますが、いじめに関するマニュアル、環境が良くなり心の相談員、カウンセラーがいっぱい来られるのですが、一番子どもに直接的に対面しているのは学級の担任、教職員だと思います。その方々がどういう形で教育しているかという、協働という言葉、協力して働く、こういう意識が徹底すればいいんだと思いますが、なかなかそれがいかない。報告すればどういう評価をされるのだろうか。職員づくり、学校づくり、今までやってきたことをもう一回振り返ってやっていくべきなんだなと思います。

もう一つは、やっぱり効果、成果を主体と考える職場とは違って、学校とはそれだけではないものがあるというみんなで教育しているんだと意識の中では今までありましたし、速やかにということを求められる。そのためには職場の雰囲気づくりがものすごく重要になってくる。教育委員会は教育行政ということだけれども、それ以前に教職員を育てる立場を今まで以上に大事にしなければならないと感じました。

(市長) 学級の困ったことをみんなの前で発表するということは、評価上いいんだよというメッセージを出していただきたい。改善につながっていきますからね。

(鈴木委員) 市長さんからお話いただきました一つ一つが本当に大切なことだとお聞きしました。7月始めに、市内の小中学校の様子を見させていただきましたが、授業を受けている子どもたちが真っ直ぐで一生懸命授業に取り組んでいる姿をみて、何より感じたのは、先生方が誠心誠意子どもたちを愛しながら授業をしてくれているなと思ってきました。いろんなマニュアルがありますが、そういったマニュアルが本当に機能しているかということの一つ一つチェックしていかなければいけないかと思いますし、何と言っても、どんな素晴らしい計画があろうとも子どもたちの最前線で接している教職員がそれを全うしていかなければならないなあと身にしみて感じています。現場の先生方にも伝えましたが、教育は人なりという言葉そのとおりだなと思いますので、これからも先生たちにはがんばってほしいなと思います。

今回の矢巾の事件に関して感じることは、児童生徒には命の重みとか尊さをもっとわかってほしいと思います。当市では、赤ちゃんふれあい体験教室という貴重な命を感じる学びをしておりますし、震災体験、あつてはならないことですが、震災体験を通して命の尊さを感じていると思いますし、心の教室相談員さんを配置しているという、そういった中で、命の尊さ重みをもっともっとわかってもらう活動をしてほしいなと思います。

先生方もがんばっていると思うんです。そこら辺を、マイナスの面を報道されることはありますが、がんばっている面をもっと世間にアピールしてほしいなと思いました。

(熊谷委員) 職員室の中での雰囲気といいますか、例えば担任の先生が意見とか困ったことを話せる雰囲気をもっていられしやるかどうかということが大事なのではないかなと思います。それと、プラン・ドゥ・シー・アクションという言葉がありますが、それを念頭に、様々な行事がある中で、ちゃんとチェックする方も大事なのではないかと思いました。職場のコミュニケーションが最も大事なのではないかと感じております。

(谷地委員) 私は民間なもので教育現場のことはよくわかっているわけではありませんが、子どももおりますので父兄の立場として申し上げれば、自分自身反省しながらですが、できれば父兄も先生方と行事も大切ですが、単純に、簡単に、夜お食事会とか飲み会とかで接する機会も必要なのではないかと。接していないと相手が何を考えているのかわからない。お子さんたちのいじめって、親にも原因があると思うんです。正直なところ。先生とは面談とかかしこまったところだけではなくて、先生はプライベートな時間は負担になるかもしれませんが、たまにはみたいな感じで父兄と雑談することで、そういったところで見えてくるところがあったりするのかなと思います。そういったことが糸口というわけではありませんが、コミュニケーションが密になることで見えてくることのあるのではないかと思います。

(教育長) 今、市長さんから自分の思いをお話していただきましたが、市長さんから言われたことを校長に正確にお伝えしまして、こうしたことが起きないように、防ぐんだという市長さんの気持ちを伝えたいと考えております。

市長さんがいつもお話なさることですが、先送りするなということで、問題になったら

即対応しろということを重く受け止めていかなければならないと考えております。

先ほど、鈴木委員さんからもお話がありました。先日、学校訪問した時に、私からも話したことなのですが、子どもを中心によく教職員が話をしなければならない。話をしていく会話力、情報の共有力とかそういったものが、子どもの人間関係を教職員が感知する力になっていくと思うわけです。

実にここは単純なところで、子どもたちの情報を得るために子どものことを中心に先生方がいつでも会話できる職場づくり、組織づくりがとても必要なのだと思います。そうした中で、今、市長さんが話をされましたことについて、特に先生方にとって大きく励ましになるというか、発想を転換されることでもあるわけですが、いち早く上司に相談することは、どんな恥ずかしいことであろうと失敗であろうと評価されることなのだろうところは徹底していかなければならないと考えているところでございます。

今日は位置づけとしては、第2回の総合教育会議なんですけれども、市長さんが緊急的に招集をかけて私たちに話をしたということについて、私自身も重く受け止めて現場に伝えたいと考えております。

(市長) よろしくをお願いします。

(教育次長) 最後に市長からお願いいたします。

(市長) こうやって、ペーパーで出しましたが、毎週、市役所内では部長会議、庁議がありまして、庁議では私は口頭ではお話しません。全てメモの形にして、特定部署への指示書であったり、思いであったり、命令みたいなものであったり、毎週出しております。毎週出しておりますので、これは終わったなというものにはマークを入れておきます。なぜか2ヶ月3ヶ月すれば終わっているものが分かる。決裁が回ってきますし、庁議でも報告があります。半年もすれば、ほとんどのことが実施されております。単に私の思いを口頭で伝えるのではなく、書面として残しておりますので、みなさんにとってはやりやすい面でもあるようです。

誰かの発言を自分なりにメモを取って第三者に伝えたりすることがありますが、必ず情報が曲がってきますよね。それを防ぐために書面で出しております。この書面を各学校に配っていただいてもいいですし、あるいは、書いている内容を写して学校に伝えてもいいです。

私は、40年のサラリーマン生活と市長職の経験から書いております。この中に大事なことが含まれております。特に最後に強調しておきたいのですが、世の中で一番強いのは真実であるということですね。これさえ道を外さなければ、要するに自分の腹の中にやましいこと、あるいはポケットの中に恥ずかしいことそういうものを持ってない限りは心配ありません。

私は今、市長職ということもありますし、大震災からの復興という予算的にも仕事の的にも重たい課題を背負っておりますけれども、悩みごとは一切ありません。私自身は、市の職員と情報共有をしながら自分の思いを確認しながら、皆さんと情報共有しながらみなさ

んで事業を進めております。悩み事は一切ありません。本当のことです。

ということで、世の中で一番強いのは真実ですよ。一つどうぞよろしくお願いします。
(教育次長) どうもありがとうございました。長時間に渡りましてご意見いただきましてありがとうございます。以上を持ちまして第2回大船渡市総合教育会議を閉会いたします。
ありがとうございました。